

## 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート 集計結果

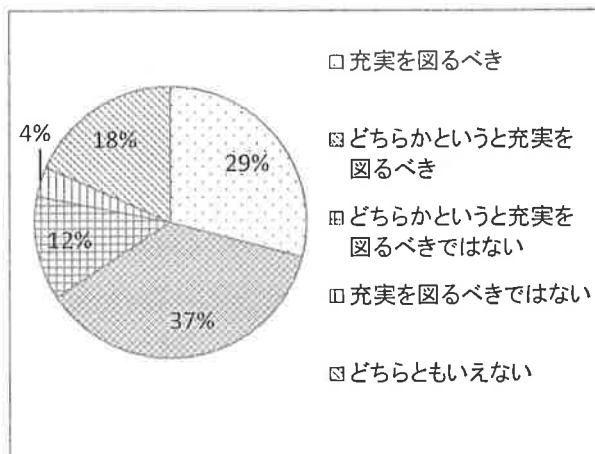
1	広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート 問1～問3集計	1
2	広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート結果 (中学校・特別支援学校)	4
3	広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート結果 (高等学校)	10
4	(参考) 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート用紙	16

# 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート

問1 各学校の特色を生かした入学者選抜の充実を図ることが必要だと考えますか。

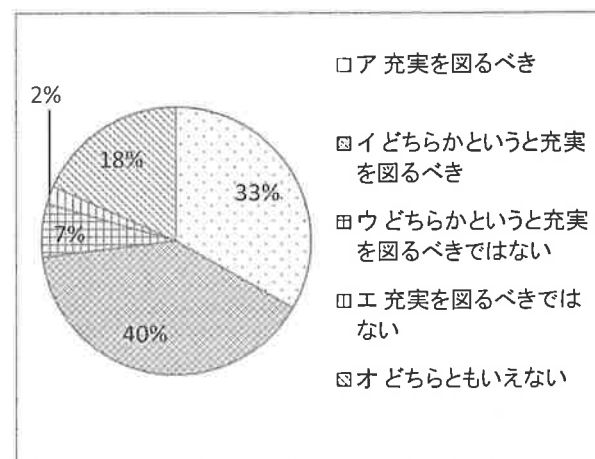
## 《中学校・特別支援学校》

選択肢	回答	割合
ア 充実を図るべき	73	29.1%
イ どちらかという充実を図るべき	92	36.7%
ウ どちらかという充実を図るべきではない	31	12.4%
エ 充実を図るべきではない	9	3.6%
オ どちらともいえない	46	18.3%
合計	251	100.0%



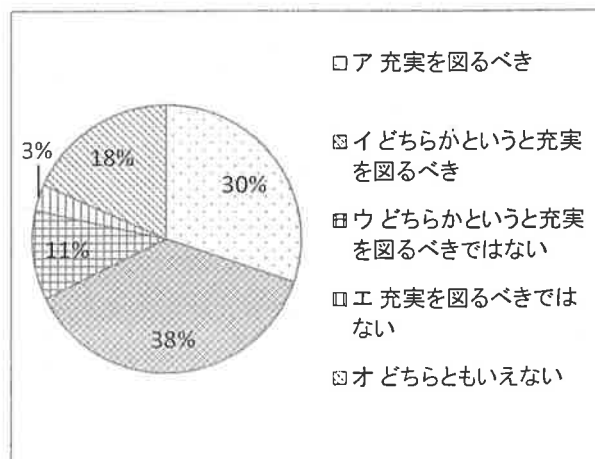
## 《高等学校》

選択肢	回答	割合
ア 充実を図るべき	31	33.3%
イ どちらかという充実を図るべき	37	39.8%
ウ どちらかという充実を図るべきではない	6	6.5%
エ 充実を図るべきではない	2	2.2%
オ どちらともいえない	17	18.3%
合計	93	100.0%



## 《全体》

選択肢	回答	割合
ア 充実を図るべき	104	30.2%
イ どちらかという充実を図るべき	129	37.5%
ウ どちらかという充実を図るべきではない	37	10.8%
エ 充実を図るべきではない	11	3.2%
オ どちらともいえない	63	18.3%
合計	344	100.0%

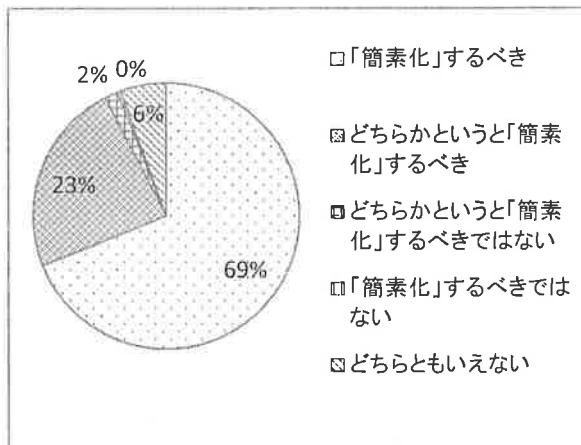


## 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート

問2 入学者選抜制度の「簡素化」を図っていくことについて、どのように考えますか。

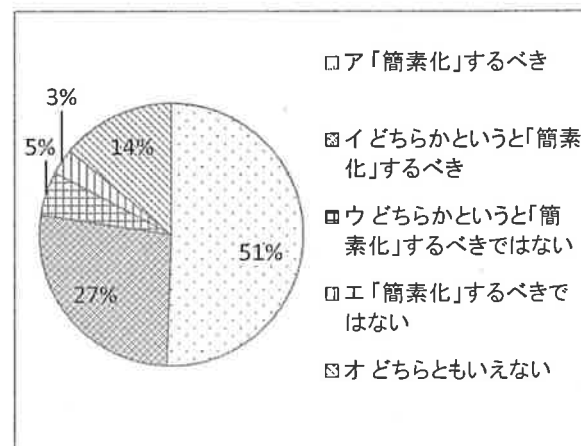
### 《中学校・特別支援学校》

選択肢	回答	割合
ア「簡素化」するべき	173	68.9%
イ どちらかという「簡素化」するべき	59	23.5%
ウ どちらかという「簡素化」するべきではない	4	1.6%
エ「簡素化」するべきではない	1	0.4%
オ どちらともいえない	14	5.6%
合計	251	100.0%



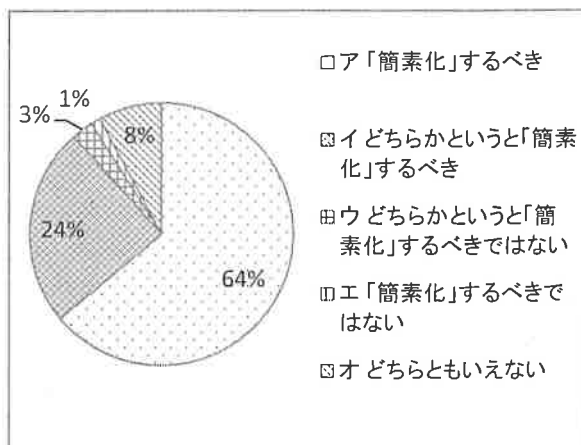
### 《高等学校》

選択肢	回答	割合
ア「簡素化」するべき	47	50.5%
イ どちらかという「簡素化」するべき	25	26.9%
ウ どちらかという「簡素化」するべきではない	5	5.4%
エ「簡素化」するべきではない	3	3.2%
オ どちらともいえない	13	14.0%
合計	93	100.0%



### 《全体》

選択肢	回答	割合
ア「簡素化」するべき	220	64.0%
イ どちらかという「簡素化」するべき	84	24.4%
ウ どちらかという「簡素化」するべきではない	9	2.6%
エ「簡素化」するべきではない	4	1.2%
オ どちらともいえない	27	7.8%
合計	344	100.0%

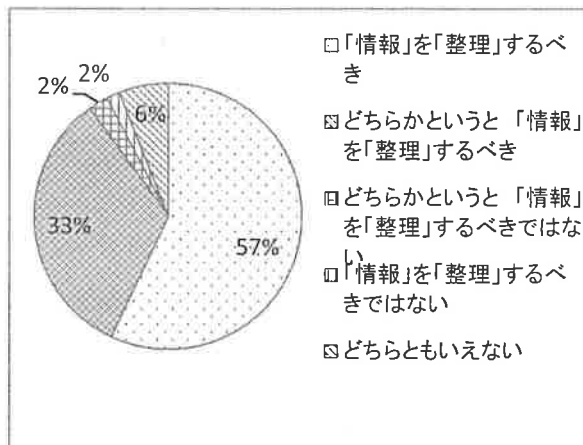


## 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート

問3 調査書の「情報」を「整理」することについて、どのように考えますか。

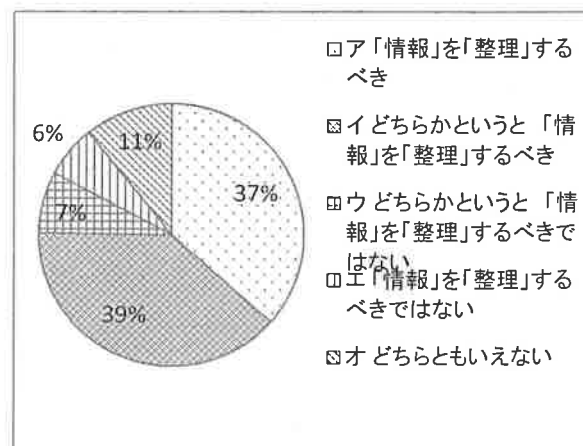
### 《中学校・特別支援学校》

選択肢	回答	割合
ア「情報」を「整理」するべき	143	57.0%
イどちらかという「情報」を「整理」するべき	83	33.1%
ウどちらかという「情報」を「整理」するべきではない	6	2.4%
エ「情報」を「整理」するべきではない	4	1.6%
オどちらともいえない	15	6.0%
合計	251	100.0%



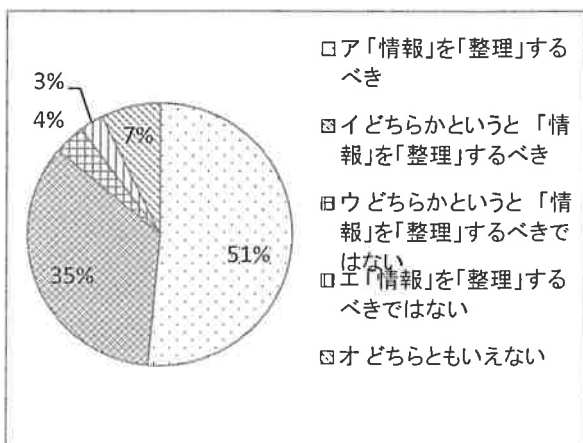
### 《高等学校》

選択肢	回答	割合
ア「情報」を「整理」するべき	34	36.6%
イどちらかという「情報」を「整理」するべき	36	38.7%
ウどちらかという「情報」を「整理」するべきではない	7	7.5%
エ「情報」を「整理」するべきではない	6	6.5%
オどちらともいえない	10	10.8%
合計	93	100.0%



### 《全体》

選択肢	回答	割合
ア「情報」を「整理」するべき	177	51.5%
イどちらかという「情報」を「整理」するべき	119	34.6%
ウどちらかという「情報」を「整理」するべきではない	13	3.8%
エ「情報」を「整理」するべきではない	10	2.9%
オどちらともいえない	25	7.3%
合計	344	100.0%



## 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート(中学・特支)

### 【問1】

新学習指導要領等の趣旨を踏まえ、生徒が、多様な選択肢の中から、主体的に学校を選択することができるようにするため、学力検査と調査書の比重を各学校で設定することや学校独自の選抜方法の拡充を図ることなど、各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実を図ることが必要だと考えますか。

その理由及び、望ましいと考える「各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実策」について記入してください。

選択肢	回答	割合	
ア 充実を図るべき	73	29.1%	} 65.7%
イ どちらかという充実を図るべき	92	36.7%	
ウ どちらかという充実を図るべきではない	31	12.4%	} 15.9%
エ 充実を図るべきではない	9	3.6%	
オ どちらともいえない	46	18.3%	
合 計	251	100.0%	

### 【問2】

本県の入学者選抜の質的改善を図るため、制度の「簡素化」を図っていくことについて、どのように考えますか。

その理由及び、望ましいと考える「簡素化」の内容について記入してください。

選択肢	回答	割合	
ア 「簡素化」するべき	173	68.9%	} 92.4%
イ どちらかという「簡素化」するべき	59	23.5%	
ウ どちらかという「簡素化」するべきではない	4	1.6%	} 2.0%
エ 「簡素化」するべきではない	1	0.4%	
オ どちらともいえない	14	5.6%	
合 計	251	100.0%	

### 【問3】

調査書に関し、国において、入学者選抜の改善に当たり、新学習指導要領の趣旨も踏まえつつ、学校の働き方改革の観点から、調査書の作成のために中学校の教職員に過重な負担がかかったり、生徒の主体的な学習活動に悪影響を及ぼしたりすることのないよう、必要な「情報」を「整理」することなどについて指摘されています。

現在、調査書には、「情報」として、中学校第1学年から第3学年までの3学年分の評価等を記入することになっており、記載内容には、

- ・ 学習の記録（観点別、評定）
- ・ 行動の記録
- ・ 欠席日数
- ・ 総合的な学習の時間の記録
- ・ 特別活動の記録
- ・ スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録
- ・ 備考

があります。

こうした調査書の「情報」を「整理」することについて、どのように考えますか。また、望ましい「整理」の内容について記入してください。

選択肢	回答	割合	
ア 「情報」を「整理」するべき	143	57.0%	} 90.0%
イ どちらかという「情報」を「整理」するべき	83	33.1%	
ウ どちらかという「情報」を「整理」するべきではない	6	2.4%	} 4.0%
エ 「情報」を「整理」するべきではない	4	1.6%	
オ どちらともいえない	15	6.0%	
合 計	251	100.0%	

問1 各学校の特色を生かした入学者選抜の充実を図ることが必要だと考えますか。

■ 集計結果

選択肢	回答数	割合	理由
ア 充実を図るべき	73	29.1%	○ 生徒も教育内容を踏まえて主体的に選択ができる。 ○ 高等学校の特色づくりの充実は、中学校での学びの質や意欲を高めることにもつながる。
イ どちらかという と充実を図るべき	92	36.7%	○ 特色を見て生徒が選択の幅を広げることができる。 ○ 生徒の適正や能力・意欲などを多面的に評価し、将来へつなげていくことができる。 ○ 生徒の多様な特性、個性に応じた進路選択を可能にすることができる。
ウ どちらかという と充実を図るべき ではない	31	12.4%	○ 学校現場の生徒指導や保護者対応を考慮すれば、現行の学力検査と調査書の比率の方がよいと考える。
エ 充実を図るべき ではない	9	3.6%	○ 生徒・保護者に混乱が生じ、中学校での指導が難しくなることが危惧される。
オ どちらともいえ ない	46	18.3%	○ どのように選抜方法が変わるのかの具体的な内容が分からないので、判断できない。
合計	251	100.0%	

■ 望ましいと考える「各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実策」

○ 特色入試の実施 (62)

- ・ 学力検査と調査書の比重を各高等学校で設定し、各高等学校の特色を生かした入学者選抜を実施することは、時代が変化する中で、望ましいことと考える。
- ・ 各高等学校が学力検査と調査書の比重を設定することや面接の重視、作文など本人のやる気や意欲を量れる特色ある選抜方法を模索して欲しい。
- ・ 実技試験、グループワーク等、本当に欲しい生徒を絞り込むような、また、生徒もチャレンジしたくなるような特色を生かした入学者選抜の実施を各高等学校で検討してほしい。

○ 各学校における裁量の拡大 (53)

- ・ 大学進学に向けて英語に重点を置く学校や理数系の教科に重点を置く学校、就職のための資格や能力に重点を置く学校など、その高等学校に適性のある生徒を入学させるための多様な選抜方法がある方がよいと考える。
- ・ 具体的で踏み込んだ選考基準（特殊な技能や顕著な活動）を示したり、選考において、グループ討議やディベートなど多彩な方法を実施するのもよいと思う。
- ・ 学力検査や面接などとは別に、各高等学校が事前に出した課題を受検生がプレゼンテーション等を通じて課題解決の方法を发表或し、一部の学科で実施している実技試験を拡大したりするなどの入試選抜の充実策が考えられる。

○ その他 (21)

- ・ 各高等学校が特色を出す中で、発達障害のある生徒や不登校傾向の生徒など、特別な配慮を要する生徒の入学にも対応できるシステムがあれば一層よいと思う。

問2 入学者選抜制度の「簡素化」を図っていくことについて、どのように考えますか。

■ 集計結果

選択肢	回答数	割合	理由
ア 「簡素化」するべき	173	68.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 早期に合格が内定した生徒と受検に取り組む生徒が混在し、中学校の教育活動に影響が出ている。</li> <li>○ 入学者選抜に係る期間を短くすることで、中学校、高等学校双方の教育活動を充実することができる。</li> <li>○ 選抜（Ⅰ）では、合否判定について不明瞭さが否めなく、不合格になった生徒がダメージを受ける。</li> </ul>
イ どちらかという と「簡素化」するべき	59	23.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選抜（Ⅰ）で不合格になっても、選抜（Ⅱ）で同じ高等学校を受検する生徒も多くいる。</li> <li>○ 選抜（Ⅰ）・私立推薦、私立一般、選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）があり、その都度調査書等の提出がある。</li> </ul>
ウ どちらかという と「簡素化」するべきではない	4	1.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受検の機会が多い方がよい。</li> </ul>
エ 「簡素化」するべきではない	1	0.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡素化が選抜（Ⅰ）の廃止や選抜（Ⅲ）の廃止というものであれば賛同しかねる。</li> </ul>
オ どちらともいえない	14	5.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「簡素化」すべきだと思うが、多様な選抜方法を実施すれば複雑化するのではないかと。</li> </ul>
合計	251	100.0%	

■ 望ましいと考える「簡素化」の内容

○ 現行の入試制度の見直し (137)

- ・ 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を一本化して一般入試とし、3月初旬まで勉強をさせたい。
- ・ 推薦入試と一般入試を一本化し、「選抜」の回数を1回に減らすことで、生徒にとっても推薦入試対策（小論文等）と一般入試対策を一本化することができる。
- ・ 選抜（Ⅰ）、（Ⅱ）の提出書類が一本化されることで、職員の負担も軽減される。
- ・ 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を一本化した方が生徒・教職員、中学校・高等学校において、メリットが多いのではないかと考える。
- ・ 選抜（Ⅰ）を廃止すれば、書類の準備や点検・確認の時間が削減され業務改善につながる。

○ 書類の削減及び簡素化、手続の簡素化 (69)

- ・ 極力、受検生徒の選抜に必要な情報のみを扱うなど簡素化を図るべきである。
- ・ 出願に多大な時間と経費を要し、授業時数の確保にも影響が及んでいる。
- ・ 入学願書等や選抜結果の通知等について、郵送、インターネット等を活用するなどして直接行かなくてもよい方法に変更する。

○ その他 (21)

- ・ 「取り下げ」「再提出」の制度はなくすべきである。

問3 調査書の「情報」を「整理」することについて、どのように考えますか。

■ 集計結果

選択肢	回答数	割合	理由
ア 「情報」を「整理」すべき	143	57.0%	○ 調査書には、国立・公立・各私立など、多様な形式があり、膨大な時間を費やして作成している。 ○ 調査書に記載している事項が、どれだけ入学者選抜の判断に影響を与えているか不透明である。 ○ 評価は、各学校における各教科の評価材料の種類や定期テストの難易度に左右されるところがある。
イ どちらかという と「情報」を「整理」すべき	83	33.1%	○ 調査書作成に時間や労力を費やし、本来なら行うべき生徒の進路保障に向けた取組ができない。 ○ 「情報」の数が多いということは、それだけ「調査書」の作成・点検に時間を要することである。
ウ どちらかという と「情報」を「整理」すべきではない	6	2.4%	○ 調査書の書式を変えることにより、これまで使っていた入力システムの改訂作業が必要になるため、逆に仕事は増え、人的ミスも発生するおそれがある。
エ 「情報」を「整理」すべきではない	4	1.6%	○ 塾などが「学校に行く意味はないので休んで塾で勉強しなさい。」といった誘導をすることが懸念される。
オ どちらともいえない	15	6.0%	○ 高等学校側がどのように選抜に活用しているのかわからないので、何とも言えない。
合計	251	100.0%	

■ 望ましい「整理」の内容

○ 必要だと思う情報 (132)

- ・ 「学習の記録」, 「欠席日数 (特に日数が多い場合)」, 「特記事項」は、記載が必要である。
- ・ 実際に入学者選抜に活用される客観的な事項のみに整理していただきたい。
- ・ 高等学校にとって本当に必要な情報を精査し、記載の仕方も担任の文章力等に大きく左右されないように検討するなど、「整理」及び「精査」することは必要と考えます。
- ・ 学習の記録については、3年の評定のみでよいのではないかと。

○ 必要でないと思う情報 (77)

- ・ 「総合的な学習の時間の記録」は必要ない。今の記述方法で他者 (他校) と内容を比べて選抜の材料とすべきではない。
- ・ 「スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録」において、学校が関わっていない活動等 (スポーツ少年団などの記載) は中学校に求めるべきではない。自校の教育活動でないものについて責任は持てない。
- ・ 「行動の記録」等、記述する文章は、あまり意味が無いので整理すべき。

○ その他 (36)

- ・ 選抜 (I) の推薦書は私学の推薦書並みに簡素化しても支障はないと思う。



問4 改善した方が良くと思う点がある場合は、その具体的な内容や理由について記入してください。

■ 集計結果

《現行の入学選抜制度の簡素化について》 (73)

- 選抜（Ⅰ）の廃止や選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）の一本化 (70)
  - ・ 選抜（Ⅰ）へ対応するための準備を早くからするため、日頃の教科学習が疎かになる。
  - ・ 不合格になった生徒の多くは、結果的に選抜（Ⅱ）で同じ高校を受検し合格している。
  - ・ 内定後、受検勉強をしなくなり、高校入学後の学力低下を招く原因になっている。
  - ・ 選抜（Ⅰ）の倍率がかなり高いため、不合格になった生徒のケアも必要である。
  - ・ 合格が決まった生徒と、決まっていない生徒が混在することで、授業を成立させていくことの難しさがある。
  - ・ 早期に内定することが、卒業時までの更なる学力の向上につながりにくいため。
  - ・ 入試期間が長期化しており、受検生への学習指導により、他の在校生の部活動指導などの業務に影響を及ぼしている状況が見られる。
- その他 (3)
  - ・ 選抜（Ⅲ）によって進路未決定者が救われている現状はあるが、そのことが中学生の進路を決める意志を弱めている面もあるため、選抜（Ⅲ）を廃止した方がよい。

《書類の削減及び簡素化について》 (68)

- 調査書について (30)
  - ・ 作成した書類が高等学校入学選抜に活用されているという実感が乏しい。
  - ・ 高等学校が必要な情報だけ調査書に記入することが、教員の負担軽減になるとともに、必要以上に生徒が調査書を意識して学校生活を送ることもなくなる。
  - ・ 選抜（Ⅰ）の場合は、正月も休日も惜しんで作成した割には内定者が少ない。
- 願書について (25)
  - ・ 願書出願の際、学校によっては2時間を超える受付時間を要し、中学校・高等学校側も膨大な業務となるため、願書の様式を簡潔で分かりやすいものにしてほしい。
  - ・ 願書のデジタル化により、誤字・脱字が減り、訂正等も行いやすくなる。
- 推薦書・入学確約書について (13)
  - ・ 推薦書には人物所見等があるが、記載する教職員の文章力により差違が発生する可能性があり、公平性という観点から課題がある。
  - ・ 選抜（Ⅰ）については、第一志望であり、入学を前提としていることから、あえて確約書を提出する必要はない。

《手続の簡素化について》（102）

- 出願書類等の提出について（62）
  - ・ 教員が手分けして高等学校を巡って出願するが、人手も時間も限界がある。受付で待たされる時間を短縮するためにも何らかの改善が欲しい。
  - ・ 生徒にとって大事な受検の指導に関われる時間が充分に取れない。
  - ・ 管理職や教諭が直接県内各地の高等学校に持参しているが、高等学校の事務職員の方によって確認する時間の差が非常に大きい。
  - ・ インターネットによる出願等により、電子化することによってかなりの旅費を軽減できるのではないかと。
  - ・ 校務があり、教員の出張は極力抑えたい。授業時数確保の点からも出張させにくい。
- 本人・保護者による出願等について（27）
  - ・ 印鑑押印ミスや保護者による誤字・脱字などもあるため、保護者や生徒が直接願書等の手続ができるようにしてほしい。
  - ・ 問題解決できる生徒を育てていくためには、出願自体も生徒が主体的に自分で責任を持ってできるようになることが大切であると考えます。
  - ・ 生徒には願書の手続きや合格後の手続き等を行うような力を身に付けてほしい。
- その他（13）
  - ・ 仕事をしている保護者の負担軽減のため、選抜料をコンビニで振込可能にしてほしい。
  - ・ 職員を出張させづらい状況があるため、出願書類の提出や選抜結果の受領を手交ではなく、郵送としてほしい。また、調査書等をデータで送付させてほしい。

《その他》（43）

- 特別な支援が必要な生徒への対応について（15）
  - ・ 特別支援学級在籍者の中にも、高等学校への進学を希望する生徒が多くいるため、高等学校の受け入れ態勢も含めて入試制度の整備が必要である。
  - ・ 個々の特徴を理解し、診断書・中学校の合理的配慮・支援の実績を認め、個々に合った措置を許可していただききたい。
- 日程の見直しについて（9）
  - ・ 選抜のスケジュール全体の見直しをしていくことで、書類の作成や確認の時間にあてることができる。
- 学力検査の出題のバランスについて（8）
  - ・ 活用問題を多くしたことにより、基礎的な問題が減少し、生徒が得点を取りにくいものになっており、教科指導が難しく、生徒の進路の保証ができにくい。
- 検査方法について（6）
  - ・ 外国語によるコミュニケーション能力を育成することが求められており、入学者選抜でも、話すこと（やりとり）の評価を行うインタビューテストを実施すべきではないかと。
- 3年生の成績を重視することについて（5）
  - ・ 入学者選抜を実際に受検するときの子供の状況をより重視し、総合的に判断して合格者を決定すべきである。

## 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート(高校)

### 【問1】

新学習指導要領等の趣旨を踏まえ、生徒が、多様な選択肢の中から、主体的に学校を選択することができるようにするため、学力検査と調査書の比重を各学校で設定することや学校独自の選抜方法の拡充を図ることなど、各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実を図ることが必要だと考えますか。

その理由及び、望ましいと考える「各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実策」について記入してください。

選択肢	回答	割合
ア 充実を図るべき	31	33.3%
イ どちらかという充実を図るべき	37	39.8%
ウ どちらかという充実を図るべきではない	6	6.5%
エ 充実を図るべきではない	2	2.2%
オ どちらともいえない	17	18.3%
合計	93	100.0%

73.1%

8.6%

### 【問2】

本県の入学者選抜の質的改善を図るため、制度の「簡素化」を図っていくことについて、どのように考えますか。

その理由及び、望ましいと考える「簡素化」の内容について記入してください。

選択肢	回答	割合
ア 「簡素化」するべき	47	50.5%
イ どちらかという「簡素化」するべき	25	26.9%
ウ どちらかという「簡素化」するべきではない	5	5.4%
エ 「簡素化」するべきではない	3	3.2%
オ どちらともいえない	13	14.0%
合計	93	100.0%

77.4%

8.6%

### 【問3】

調査書に関し、国において、入学者選抜の改善に当たり、新学習指導要領の趣旨も踏まえつつ、学校の働き方改革の観点から、調査書の作成のために中学校の教職員に過重な負担がかかったり、生徒の主体的な学習活動に悪影響を及ぼしたりすることのないよう、必要な「情報」を「整理」することなどについて指摘されています。

現在、調査書には、「情報」として、中学校第1学年から第3学年までの3学年分の評価等を記入することになっており、記載内容には、

- ・ 学習の記録（観点別、評定）
- ・ 行動の記録
- ・ 欠席日数
- ・ 総合的な学習の時間の記録
- ・ 特別活動の記録
- ・ スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録
- ・ 備考

があります。

こうした調査書の「情報」を「整理」することについて、どのように考えますか。また、望ましい「整理」の内容について記入してください。

選択肢	回答	割合
ア 「情報」を「整理」するべき	34	36.6%
イ どちらかという「情報」を「整理」するべき	36	38.7%
ウ どちらかという「情報」を「整理」するべきではない	7	7.5%
エ 「情報」を「整理」するべきではない	6	6.5%
オ どちらともいえない	10	10.8%
合計	93	100.0%

75.3%

14.0%

問1 各学校の特色を生かした入学者選抜の充実を図ることが必要だと考えますか。

■ 集計結果

選択肢	回答数	割合	理由
ア 充実を図るべき	31	33.3%	○ 多様な生徒のニーズに応えることが可能となる。 ○ 学校により、調査書の評定に差が見られる。
イ どちらかという と充実を図るべき	37	39.8%	○ 育成したい資質・能力や卒業時の生徒の姿を明確にするため。 ○ 生徒が主体的に学校を選択するため。 ○ 求める生徒の能力や資質を適切に測るため。
ウ どちらかという と充実を図るべき ではない	6	6.5%	○ 現行の入学者選抜制度が中学校や生徒、保護者に定着しているため。
エ 充実を図るべき ではない	2	2.2%	○ 受検生や保護者に分かりづらくなり、学校選択に迷いを生じさせる。
オ どちらともいえ ない	17	18.3%	○ 現行の入学者選抜制度においても、比重の設定や、独自問題の作成は可能だから。
合計	93	100.0%	

■ 望ましいと考える「各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実策」

○ 各学校における裁量の拡大 (50)

- ・ 学力検査と調査書の比重を各高等学校で設定可能にする。
- ・ 共通の選抜方法や内容に加えて、独自の方法や内容を実施することができるとするのが望ましい。
- ・ 各高等学校の特色を生かした入学者選抜の割合を30%~50%として学校裁量とする。
- ・ 現行制度の「学力検査と調査書の比重を各学校で設定することや学校独自の選抜方法」の種々の制限を緩和することによって、やりやすくなる。

○ 特色入試の実施 (18)

- ・ 各高等学校がスクールポリシー等により、求める生徒像や特色をより明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価することが望ましい。このことは、中学生自らが将来を展望する契機になりうる。
- ・ 前期選抜において、学校が求める生徒像（アドミッションポリシー）を明確にし、学校の特色を公表し、出願願書に加えて自己推薦書を作成させ評価する。
- ・ 学校の特色づくりを推進していることや、「学校の色」というものは既にあるという現状から考えて、それに配慮した入学者選抜制度の充実は必要なものとする。

○ その他 (7)

- ・ 3年生の成績に重みを持たせるなど学年ごとの比重を変える。
- ・ 学力検査において、特定の教科の比重を高くする。
- ・ 一般入試においても、グループワーク、プレゼンテーションなどの選抜方法を実施できるようにする。

問2 入学者選抜制度の「簡素化」を図っていくことについて、どのように考えますか。

■ 集計結果

選択肢	回答数	割合	理由
ア 「簡素化」するべき	47	50.5%	○ 選抜（Ⅰ）の不合格者が選抜（Ⅱ）で同一校を受検する割合は高く、その際の合格率も低い。 ○ 選抜に係る業務が長期にわたり、本来行うべき教育活動が圧迫されている。 ○ 必要以上に推薦書を書く必要はない。自己アピールを生徒にしっかり書かせることでよい。
イ どちらかという と「簡素化」するべき	25	26.9%	○ 入試期間の長期化によって、授業時間数等への影響や教員の負担が大きくなっており、在校生に十分な指導を行うことができない。
ウ どちらかという と「簡素化」するべきではない	5	5.4%	○ 現在の選抜（Ⅰ）があるおかげで、学校の核となる生徒を確保できているという面もある。
エ 「簡素化」するべきではない	3	3.2%	○ 選抜（Ⅰ）をなくしたら、優秀な生徒が私学に流出する結果を招く恐れがある。
オ どちらともいえない	13	14.0%	○ 学校によっては、選抜（Ⅰ）において有力部活動の部員が多く入ってくる状況もある。
合計	93	100.0%	

■ 望ましいと考える「簡素化」の内容

○ 現行の入試制度の見直し（43）

- ・ 現行の選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統一し、2月中旬に実施することが望ましい。
- ・ 推薦入試と一般入試を一本化し、「選抜」の回数を2回に減らし、生徒、教職員の教育活動の充実を図る。
- ・ 選抜（Ⅰ）及び（Ⅱ）を一本化することで、長期化する入試制度の簡素化につながると考える。
- ・ 受検の長期化、中学校の指導の難しさ、小論文作成と採点など高等学校の業務量を考慮し、選抜（Ⅰ）は廃止してもよい。
- ・ 選抜（Ⅰ）は、公平性等を考慮して、なくてもよい。
- ・ 選抜に係る時間や業務負担を削減するためにも、選抜の回数は2回にする方がよい。

○ 書類の削減及び簡素化、手続の簡素化（10）

- ・ 高等学校では何を元に選抜するのかを簡素化し、さらに明確にしていくこと、中学校向けには作成書類等の大幅な簡素化を実現していくことが求められる。
- ・ 調査書等の書類や手続についても簡素化に向けた工夫・改善があるとよい。

○ その他（31）

- ・ 入学者選抜（Ⅱ）における取り下げ・再提出を廃止する。

問3 調査書の「情報」を「整理」することについて、どのように考えますか。

■ 集計結果

選択肢	回答数	割合	理由
ア 「情報」を「整理」すべき	34	36.6%	○ 公正な資料となるよう数値化する必要があり、数値化が難しい情報は活用しにくい。 ○ 整理した方が中学校側も高等学校側もミスの発生を減少させることができる。
イ どちらかという と「情報」を「整理」すべき	36	38.7%	○ 調査書の記載の中には、合否判定への活用がなされていない項目が多くある。 ○ 入学者の情報は、入学後送付されてくる生徒指導要録（写し）によって確認できる。
ウ どちらかという と「情報」を「整理」すべきではない	7	7.5%	○ 調査書は、受検生について、多面的な観点から評価されたものであり、高等学校入学者選抜試験だけでは判断できない生徒の良さを知ることができる。
エ 「情報」を「整理」すべきではない	6	6.5%	○ どの項目も、高校側は重要なデータとして必要である。
オ どちらともいえない	10	10.8%	○ 調査書は、生徒指導要録から作成されるものであり、調査書作成に過重な負担はない。
合計	93	100.0%	

■ 望ましい「整理」の内容

- 選抜等で活用される情報等 (32)
  - ・ 合否判定で重要視しているのは、「学習の記録（評定）」、「欠席日数」、「特別活動の記録」、「スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録」であるため、その他は整理してもよい。
  - ・ 選抜で実際に必ず見ているのは「評定」「欠席日数」（「資格」「部活動の記録」）である。
- 記載方法の工夫 (27)
  - ・ 「特別活動の記録」や「スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録」については、特筆すべきものがあれば記入していただく程度でよい。
  - ・ 整理した項目は、エントリーシートのように様式を定め、受検生各自が記入すればよい。
- 選抜等で活用されない情報等 (24)
  - ・ 「行動の記録」は、中学校も評価の基準も無く各学年の主観で付けており、学校毎に比較できないので不要である。
  - ・ 「総合的な学習の時間の記録」は、合否判定材料にはほとんどならないが、中学校教師の大きな負担となっており不要である。
- その他 (6)
  - ・ 3年次の評定を2倍にする等、学年の評定の比重を変えることを、学校独自で設定できるようにすることが必要。

問4 改善した方が良くと思う点がある場合は、その具体的な内容や理由について記入してください。

■ 集計結果

《現行の入学選抜制度の簡素化について》 (18)

- 選抜（Ⅰ）の廃止や選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）の一本化
  - ・ 選抜（Ⅰ）の出願条件が曖昧で分かりにくく、生徒の個性が実際には反映されにくい。
  - ・ 各校の特色を打ち出した入学選抜がさらに展開されるならば、生徒の多様な資質・能力を評価できるし、中学生の学校選択にも十分応えることができる。
  - ・ 受検する生徒の選抜に係る物理的・精神的な負担を軽減し、3学期を有意義に過ごすことができる。
  - ・ 入試期間の長期化により、授業時間数の確保や在校生に対する本来の教育活動に支障が生じている。

《各学校における裁量の拡大について》 (26)

- 選抜方法について (13)
  - ・ 固有の分野で秀でた生徒を、イノベーティブな人材育成の取組の一環として入学させるため、中学校までの生徒の活動、資格・特技などに特筆すべきものがある生徒について、ある分野に特に秀でた生徒を入学させるための推薦入試を実施する。
  - ・ 高等学校で何を学びたいか、学習・スポーツ・文化活動等を明確にアピールする高校版AO入試を実施する。
- 比重について (7)
  - ・ 各校の学科及びコースの教育内容に合わせた特色ある入学選抜を実施するため、各高等学校で、各教科の比重の設定や教科の設定ができることとする。
- 定員について (6)
  - ・ 中学生は、相当の意欲をもって選抜（Ⅰ）に志願・受検しており、不合格の場合でも選抜（Ⅱ）で再受検する割合が高いため、定員の制限を緩和し、学校が定めることができることとする。

《学力検査の改善について》（15）

○ 基礎・基本の定着を測れる設問について（9）

- ・ 選抜（Ⅱ）において、中学校段階で基礎学力定着が充分でない受検生が、記述式の深く考えて類推する問題の部分について回答率が低いため、学力検査について、基礎・基本の定着を測れる設問を増やす。
- ・ 比較的難易度が低い学校では、得点が少なすぎて判断できない場合もあるため、生徒の実態に合わせて、高等学校が選抜問題を選べるようにした方がよい。

○ その他（6）

- ・ 外国語について、他府県で改革に着手する状況が見られており、本県においても、「話すこと」に関わる力を何らかの形で学力調査の一部に加える必要がある。
- ・ 選抜（Ⅱ）において、問題の意図を採点基準の配布と同時に、各学校に伝えていただけると、問題作成者の意図を盛り込んだ採点基準となり、より学びの内容が具体化できる。

《日程の見直しについて》（13）

○ 選抜（Ⅱ）及び選抜（Ⅲ）について（10）

- ・ 私学との競合の中で、効果的に生徒募集を行うため、選抜（Ⅱ）の実施時期を早め、2月下旬に実施する。
- ・ 国公立大学前期の発表時期と重なり、その後の対応が必要になるため、選抜（Ⅱ）の実施時期を早める。
- ・ 3月下旬に選抜（Ⅲ）を行うと、年度末の時期と重なり、不祥事防止や高等学校の教育活動の充実につながりにくいため、選抜（Ⅲ）の実施時期を早める。

○ その他（3）

- ・ 記述式の問題が多くなり、より慎重な採点が必要となり、採点業務に時間を要するようになっているため、明確に採点日を設ける。

《手続について》（8）

○ 志願変更について（3）

- ・ 再提出する受検生の割合が低いのであれば、事務作業の負担等も考慮し、廃止にしてもよいのではないか。選抜（Ⅲ）が実施されるため、必要ないと考える。

○ その他（5）

- ・ 教員の移動時間だけではなく、待ち時間に対する負担感も大きいため、すべて郵送出願、あるいは、インターネット出願等ができるよう、改善を検討していただきたい。
- ・ 合格発表通知の受取方法について、中学校が直接受け取らなければならない高等学校があるため、受取は、本人・保護者とした方がよい。



## 広島県公立高等学校入学者選抜制度に関するアンケート

広島県教育委員会

本県の公立高等学校入学者選抜制度については、平成13年度入学者選抜から、概ね、現在の選抜（Ⅰ）、選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）のシステムで実施しています。

現行の入学者選抜制度については、生徒の個性や能力を多面的に評価すること等をねらいとして、

- 1 それまでの中学校及び地域を指定していた選抜（Ⅰ）を、学区内から自由に受検可能とする選抜（Ⅰ）に改め、学校独自の推薦基準等を定めることなどを可能とすること
- 2 選抜（Ⅱ）について、学力検査の教科の傾斜配点を可能とすること、定員の一部において調査書又は学力検査のいずれか一方を重視した選抜を可能とすること
- 3 選抜（Ⅲ）について、当該学区に加え、隣接学区の学校も受検可能とする（現在は全県一円）こと

などについて、平成11年度に決定し、実施しています。

高等学校においては、令和4年度から、新学習指導要領が段階的に実施されることとなり、また、本県では、全国に先駆けて「学びの変革」を進め、子供達が自ら課題を発見し、解決していく能力を培っているところです。

新学習指導要領においても謳われているとおり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展する複雑で予測困難な時代の中では、生徒一人一人が社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っており、自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通して必要な力を育てていくことが必要です。

このため、公立高等学校の入学者選抜についても、生徒の主体的な学校選択を一層促すとともに、中学校等及び高等学校教育の充実が図られ、生徒の学習環境の充実につながるよう、制度の改善について検討していきたいと考えています。

おりしも、新学習指導要領の下での学習評価の重要性を踏まえ、その基本的な考え方や具体的な改善の方向性について、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会が、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」をまとめ、平成31年3月29日付けで、文部科学省初等中等教育局長から、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」が通知されたところです。

この中で、高等学校入学者選抜の改善について、「学習評価は、学習や指導の改善を目的として行われているものであり、入学者選抜に用いることを一義的な目的として行われるものではないこと」を踏まえ、次の点に留意することとされています。

《次頁に続く》

- 1 新学習指導要領の趣旨を踏まえた各高等学校の教育目標の実現に向け、入学者選抜の質的改善を図るため、改めて入学者選抜の方針や選抜方法の組合せ、調査書の利用方法、学力検査の内容等について見直すこと。
- 2 調査書の利用に当たっては、そのねらいを明らかにし、学力検査の成績との比重や、学年ごとの学習評価の重み付け等について検討すること。  
例えば、都道府県教育委員会等において、所管の高等学校に一律の比重で調査書の利用を義務付けているような場合には、各高等学校の入学者選抜の方針に基づいた適切な調査書の利用となるよう改善を図ること。
- 3 入学者選抜の改善に当たっては、新学習指導要領の趣旨等も踏まえつつ、学校における働き方改革の観点から、調査書の作成のために中学校の教職員に過重な負担がかかったり、生徒の主体的な学習活動に悪影響を及ぼしたりすることのないよう、入学者選抜のために必要な情報の整理や市区町村教育委員会及び中学校等との情報共有・連携を図ること。

また、本県と同様に、推薦入試・一般入試・二次募集など「選抜」を3回実施している他県において、例えば、推薦入試と一般入試を一本化し、「選抜」の回数を2回に減らすなど、制度の「簡素化」を図る動きが広がっています。その課題認識として、

- ・ 入学者選抜に係る期間が長期化し、中学校等、高等学校双方の教育活動に影響が出ていること
  - ・ 前期選抜（推薦入試）が、学力の高い生徒の早期合格決定の手段になっていること
  - ・ 早期に公立高等学校の合格が決定した生徒と受検を控えた生徒が混在し、中学校教育に影響が出ていること
  - ・ 前期選抜（推薦入試）で多数の不合格者が出るが、後期選抜（一般入試）でも同一校を受検する割合が高いこと
  - ・ 前期選抜（推薦入試）の出願条件が曖昧で、受検生や保護者、中学校、高等学校で解釈に相違があること
- などが指摘されています。

以上のような状況の中、本県において、入学者選抜制度の見直しを検討するに当たっての参考として、次のアンケートにお答えください。

なお、令和2年度入学者選抜については、入学者選抜の基本方針を既に教育委員会会議において決定していますので、現行の制度で実施します。

《アンケートへの回答方法について》

- ① それぞれの問いについて、選択肢（ア～オ）の中から最も該当すると思うものを選び、○を付けてください。
- ② その回答を選んだ理由等について記述してください。（必要に応じて行数を増やしてください。）

学校名	
-----	--

【問1】

新学習指導要領等の趣旨を踏まえ、生徒が、多様な選択肢の中から、主体的に学校を選択することができるようにするため、学力検査と調査書の比重を各学校で設定することや学校独自の選抜方法の拡充を図ることなど、各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実を図ることが必要だと考えますか。

その理由及び、望ましいと考える「各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実策」について記入してください。

【答1】

- ア 充実を図るべき
- イ どちらかという充実を図るべき
- ウ どちらかという充実を図るべきではない
- エ 充実を図るべきではない
- オ どちらともいえない

《自由記述》理由及び望ましい「各高等学校の特色を生かした入学者選抜の充実策」

○

《次頁に続く》

【問2】

本県の入学者選抜の質的改善を図るため、制度の「簡素化」を図っていくことについて、どのように考えますか。

その理由及び、望ましいと考える「簡素化」の内容について記入してください。

【答2】

- ア 「簡素化」すべき
- イ どちらかという「簡素化」すべき
- ウ どちらかという「簡素化」すべきでない
- エ 「簡素化」すべきでない
- オ どちらともいえない

《自由記述》理由及び望ましい「簡素化」の内容

○

《次頁に続く》

平成 31 年 1 月に、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会がとりまとめた「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」の中で、学習評価の高等学校入学者選抜での利用について、次のことが指摘されています。

- 平成 30 年度公立高等学校入学者選抜の改善等に関する状況調査によると、調査書の利用の比重は選抜方法によって異なるが、推薦入試における学力把握の重要な資料となっているほか、一般入試においても学力検査と同程度の比重で位置付けられるなど、入学者選抜に大きな影響を与えている。
- 一方、地域によっては、以下のような課題も指摘されている。
  - ・ 中学校の通常の授業で行われる日常的な評価が、厳格な公平性が求められる入学者選抜に利用されるため、教師が評価材料の収集や記録、保護者への説明責任を果たすことに労力を費やす一方で、学習評価を児童生徒の学習改善や教師の指導の改善につなげていくという点がおろそかになっている場合もある。
  - ・ 例えば、中学校の途中まで成績が不振であった生徒が学習改善に取り組んだ場合でも、それまでの成績が入学者選抜において考慮される場合、成績不振だった期間が調査書に影響し、高等学校入学者選抜時の学力が十分評価されることが難しい仕組みとなっている場合もある。
  - ・ 中学生が、入学時から常に「内申点をいかに上げるか」を意識した学校生活を送らざるを得なくなっている状況もあり、例えば、授業中の話合いや生徒会で意見を述べるときに教師の意向を踏まえたり、本意でないまま授業中に挙手したり、生徒会の役員に立候補したりするなど、自由な議論や行動の抑制につながっている場合もある。
- 中学校における学習評価は、学習や指導の改善を目的として行われているものであり、高等学校入学者選抜に用いることを一義的な目的として行われるものではない。しかしながら、高等学校入学者選抜において調査書が大きな比重を占めていることから、これが中学校における学習評価やひいては学習活動に大きな影響を与えていると考えられる。

【問3】

調査書に関し、国において、入学者選抜の改善に当たり、新学習指導要領の趣旨も踏まえつつ、学校の働き方改革の観点から、調査書の作成のために中学校の教職員に過重な負担がかかったり、生徒の主体的な学習活動に悪影響を及ぼしたりすることのないよう、必要な「情報」を「整理」することなどについて指摘されています。

現在、調査書には、「情報」として、中学校第1学年から第3学年までの3学年分の評価等を記入することになっており、記載内容には、

- ・ 学習の記録（観点別、評定）
- ・ 行動の記録
- ・ 欠席日数
- ・ 総合的な学習の時間の記録
- ・ 特別活動の記録
- ・ スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録
- ・ 備考

があります。

こうした調査書の「情報」を「整理」することについて、どのように考えますか。また、望ましい「整理」の内容について記入してください。

【答3】

- ア 「情報」を「整理」するべき
- イ どちらかという「情報」を「整理」するべき
- ウ どちらかという「情報」を「整理」するべきでない
- エ 「情報」を「整理」するべきでない
- オ どちらともいえない

《自由記述》理由及び望ましい「整理」の内容

○

**【問4】**

現在の公立高等学校入学者選抜について、改善したほうがよいと思う点がある場合は、その具体的な内容や理由について記入してください。

《自由記述》改善したほうがよいと思う点

《具体的内容》

○

《理由》

○

《御協力、ありがとうございました。》